

## 斑点米カメムシ類の防除について

岡山県病害虫防除所の調査によると、津山市の予察灯におけるアカスジカスミカメの7月1半旬から4半旬までの誘殺数は341頭で、平成19年(234.6頭)に比べやや多く、第5半旬に入った7月21日及び22日の誘殺数は172頭で、第5半旬の平成19年値(58.8頭)に比べ多く推移しています。

また、7月18日の季節予報によると、向こう1か月の気温は高く降水量は少ないと予想されており、本虫の増殖に好適な条件であることから、出穂期以降の多発生が懸念されます。

本虫の加害による斑点米の発生は、米の品質を著しく低下させますので、防除対策に万全を期してください。なお、農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ農薬が飛散しないよう十分注意して下さい。

### 1 防除対策

表1の薬剤の単剤及び混合剤による薬剤防除を行う。

主要種がカスミカメムシ類(アカスジカスミカメ等)の場合は、1回目の防除を穂揃期、2回目の防除を1回目の防除から7日後に行う。なお、主要種がその他の種(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)の場合は、1回目の防除を穂揃期の3~7日後(乳熟初期)、2回目の防除を1回目の防除から7日後に行う。

### 2 防除上の参考事項

- (1) 出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向がある。
- (2) 極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期、穂揃期等がカメムシ類の発生ピークと一致し、被害が出やすい。
- (3) 山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地・休耕田・イタリアンライグラス等の牧草地周辺の水田では被害が出やすい。
- (4) 水田周辺にある穂の付いたイネ科植物のイネの出穂2週間前から出穂3週間後までの除去は、カメムシ類を水田に追いやることになるので避ける。
- (5) 水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・かけ流しをしないようにする。

表1 斑点米カメムシ類の防除に使用する主な薬剤(平成20年7月24日現在)

薬 剤 名	剤 型	農 薬 使 用 基 準	
		使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (対象剤のみ)
トレボン*	DL 水, 乳, EW, MC	収穫7日前まで 収穫21日前まで	3回以内
MR. ジョーカー	DL EW	収穫7日前まで 収穫14日前まで	2回以内
スタークル・ アルバリン	DL, 粒, (顆粒) 溶	収穫7日前まで	3回以内
ダントツ	DL, 粒, 溶 フロアブル	収穫7日前まで 収穫14日前まで	3回以内
ベストガード	DL, 粒	収穫14日前まで	4回以内
アドマイヤー	DL	収穫21日前まで	2回以内
キラップ	DL, 粒, フロアブル	収穫14日前まで	2回以内
チェス	水	収穫14日前まで	2回以内

※の薬剤は、水産動物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。